第５期第５回福岡市市民公益活動推進審議会

１.開催日時　平成２８年２月２日（火）　１５：００～１７：００
２.場　　所　福岡市役所１５階　１５０３会議室
３.議　　題　【審議】市民公益活動の推進に係る施策の実施状況について
【審議】市民公益活動の推進に係る施策　基本方針の見直しについて
【報告】ＮＰＯ・ボランティア交流センターの次期指定管理者について
４.出 席 者　（出席委員９名）
森田委員，野口委員，大庭委員，辻委員，楠下委員，空委員，稲田委員
吉村委員，井上委員
（欠席委員１名）
橋爪委員
５.傍聴者数　なし
６.議事概要

○市民公益活動の推進に係る施策の実施状況について（審議）

【事務局】「市民公益活動の推進に係る施策　基本方針に基づく施策の実施状況（資料１）」説明。

【会　長】各委員のご活動の観点からご意見，ご質問を。

【委　員】基本方針策定以降，一般市民のＮＰＯへの理解が，なかなか浸透しないところもあるが，よくここまで市のほうで進められたなと感じる。やはり取り組みを継続していくことが大事である。

【会　長】一番大きな課題としては，共働事業提案制度そのものの見直しの必要性が出てきている点である。

○市民公益活動の推進に係る施策　基本方針の見直しについて（審議）

【事務局】「市民公益活動の推進に係る施策　基本方針の見直しについて（資料２）」及び「新しい共働事業提案制度の概要（案）（資料２別冊）」説明。

【会　長】各委員のご活動の観点からご意見，ご質問を。

【委　員】ＩＣＴの活用による新たな情報発信ツールにより，課題解決の成果を発信していくこととなっているが，これまでの経過を見ると，根本的には市民の無関心が一番底辺にあって，それが職員の無関心にもつながり，ＮＰＯの基盤強化につながっていないのではないか。課題解決状況という結果を報告することも大切だが，課題の方を共有していく，こういう課題があるというアピールをしていくことの方が市民の関心も高まるのではないかと考える。なかなかアンケートを見ていても数字が上がっていないところが非常に気になるし，情報発信をいくら行っても，関心がないということだと理解した。

もうひとつは，ＮＰＯ法人の基盤強化について，こちらもアンケートによると，有給職員がいる法人は２割弱で，法人の年間収入の中間値は２００万円程度という結果である。活動がボランティア中心のＮＰＯ法人は，あまり基盤強化に関心がないのではないか。事業系の活動もしっかり行い，自分たちのミッションを遂行していくことを目指しているＮＰＯ法人に対象を絞って支援していく方がしっかりとした成果がでるのではないか。

【事務局】ボランティアを中心に活動したい団体に対しては，あすみんを活用した活動の場の提供を行っていきたい。また，認定ＮＰＯ法人を目指す団体や活動範囲を広げたい団体に対しては，基盤強化に関する研修を実施するなど，団体の活動の方向性にあわせた施策を展開していきたいと考えている。

【委　員】共働というのは，難しい概念であり，なかなか理解が進まない点がある。実際に共働してみて，苦労も多いけどよかったという実感がない限り，理解できないのではないか。共働には，対等という考え方が一番基本になるのでははないか。私は，市民として行政と関わることもあるし，委託を受けて仕事をする場合もあるし，講師的な立場

など，色々な立場で関わることがあるが，行政職員側に威圧感があるように感じている。

【委　員】行政職員の中でも，一部でそういうことがあるかもしれない。ただ，ＮＰＯやボランティアに対する興味や必要性，やりがいの感じ方は個々に違うものである。受け入れる側としても一部では，行政職員が来たら敬遠するというのも確かにあると思う。ただ，本来は，行政職員にも業務ではなく，個人として，色々な活動に入ってもらえれば一番いいのではないか。そうしたら，もっとやりやすくなるのは事実だと思う。

【委　員】共働を理解してもらうためには，違うアプローチも必要ではないか。

【事務局】２年前から公民館や地域支援課の職員にＮＰＯの研修を行っており，公民館とＮＰＯの共働によるイベント開催など，共働が広がってきている。先日開催した公民館フォーラムでは，ＮＰＯとの共働事例やその成果を公民館の立場から発表していただいた。

【委　員】自治協も公民館も，地域でＮＰＯの受け入れがなかなか進んでいない。校区の行事に公民館を通してボランティアを受け入れたが，経験がないボランティアが来ても，受け入れる側が対応に困る場合がある。

【事務局】公民館やあすみんの方で，ボランティアと受入側の調整が必要だと考えている。

【会　長】そういうところに，プロボノの推進を活かしていく必要がある。

【事務局】プロボノについては，ＣＳＲに関心の高い企業と連携して，推進していきたいと考えている。今年度，あすみんで実施したＮＰＯ基盤強化講座では，企業から講師を派遣していただいたが，そういうかたちで発展させていきたいと考えている。

【委　員】そういうかたちであれば，退職後もつながりができていくだろう。

【会　長】次世代を担う若年層は，まだこういう活動をよく理解していないところがある。大学等では，ボランティア活動の推進について取り組んでいるところなので，これからは，より関連性が出てくるのではないかと感じる。

【事務局】新卒者の将来の選択肢の中にＮＰＯへの就職というのが，少しずつ出てきていると聞いている。そのためには，ＮＰＯの基盤を強化することが重要だと考えている。

【委　員】子どもたちのスポーツの部分では，ＮＰＯとして活動する少年ラグビー，少年野球，少年サッカーというのが全国的に増えつつある。そういう中に入った子どもたちは，ＮＰＯを子どもの頃から理解できる環境になってきている。

【委　員】大学にはボランティアセンターがあるので，そこを窓口にして，関心がある学生が活動できる機会を紹介してはどうか。また，そういう活動に関われていないけれど，何かしたい学生がＮＰＯと出会える場をつくってはどうか。
例えば，学生が，障がいのある子どもたちのコンサートを年１回開催しているが，開催するだけで精いっぱい。そこにＮＰＯやボランティアとつながってやることができたら，もっと自分たちがやっている意味が深まるのではないか。大学に対し，社会活動として学生にどんなことを要望しているかというような調査を行い，そことＮＰＯやボランティアをつなげてはどうか。

【事務局】大学生の活動機会の創出ということで，大学ごとへの働きかけを行っていきたい。
あすみんをつなぐ場として，施策を展開していきたいと考えている。

【委　員】あすみんでＮＰＯと学校関係者が対話する場を設けるのもいいだろう。

【事務局】地域コミュニティと大学との連携についても検討しているが，地域コミュニティやＮＰＯの中で学生が社会活動できる機会を創出するなど，総合的に検討していきたい。

【委　員】最初はできる部分からやっていけばいいと思う。少しだけでも実践に近い部分で活動できるきっかけづくりが大事である。

【事務局】あすみんの移転施設では，８０名規模のセミナールームもあり，また，毎年開催している共働カフェでも，出会いの場をつくっていきたいと考えている。

【会　長】チラシだけつくって大学生に見せても，非常に関心が低い。出会いの場をつくれば，関心を持って入っていくのではないか。

【委　員】久留米で大学生をつなぐ仕事をしたときは，食べ物があると興味を持っていた。食べさせるのではなく，一緒につくったり，地域の年配の人と話す機会がないので，そういう人たちとお話ができるということだけでも，喜んでいた。

【委　員】小学生や中学生など学生は，体験することが一番大事だろう。その学生たちが大人になって，幹事役になっていることもある。色々なところでそういう活動をしているＮ

ＰＯはいるし，種をまいている方もいるので，そのとりまとめは，市でやっていっていただきたい。

○ＮＰＯ・ボランティア交流センターの次期指定管理者について（報告）

【事務局】「ＮＰＯ・ボランティア交流センターの次期指定管理者について（資料３）」説明。
【会　長】各委員からご意見，ご質問を。
【会　長】新しい交流センターのオープンはいつになるのか。
【事務局】４月１日である。
【会　長】他のテナントも全て４月１日オープンとなるのか。
【事務局】そうである。
【委　員】あすみんには，企業のＣＳＲに関する情報はあるのか。
【事務局】あすみんや市民局へ企業からＣＳＲに関する相談が寄せられている。
相談対応は，全てあすみんで行っている。
【委　員】その情報を有効に活用して，例えば，ＣＳＲに関心がある企業に対し，社員が退職前から活動体験できるような働きかけが必要ではないか。
【委　員】技術を持っている方だと，シルバーセンターなどに就職が決まっているケースもある。
【事務局】企業ＣＳＲで来ていただいた方については，企業を退職された後のつながりづくりのため，企業名のリストだけでなく，個人での登録制度も検討していきたい。
【委　員】個人との出会いも大切に取り組んでいただきたい。

○閉会

以　上